

平成30年4月6日発行

鳥取県埋蔵文化財センター 青谷調査室

青谷かみじち遺跡

NEWS



発行：鳥取県埋蔵文化財センター
青谷調査室

〒689-0952
鳥取市青谷町青谷 667
鳥取市青谷町総合支所 2F
電話 0857-85-5011

Vol.

6

2018 Spring



私たちは、国史跡青谷上寺地遺跡の発掘調査や出土品の研究、史跡を整備・活用する仕事をしています。春から新しい職員が加わりました。どうぞよろしくお願ひします。

こんにちは！青谷調査室です



◆シンポジウムの様子 (138名の参加者にお越しいただきました。)



◆出土した銅戈(どうか)の破片

青谷調査室とむきばんだ史跡公園では、シンポジウムのアフターイベントを計画中です。詳細が決まりましたら改めてお知らせします。お楽しみに！

弥生時代の「デザイン」

第2回とっとり弥生の王国シンポジウム

現代にのこる二千年前の作品たち

2月25日(日)、第2回とっとり弥生の王国シンポジウム「倭人のデザイン」が米子コンベンションセンター(米子市)で開催されました。

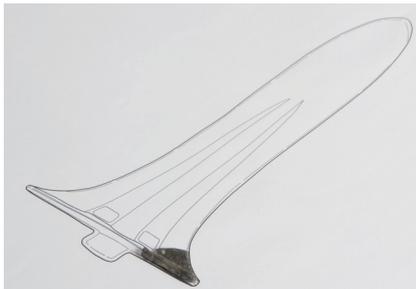
基調講演では『美の考古学 古代人は何に魅せられてきたのか』の著者で、国立歴史民俗博物館教授の松木武彦氏が、弥生時代のデザインから当時の社会をわかりやすく分析。後半の「パネルディスカッション」では、近現代美術を専門とする学芸員や、ジャンルを超えたものづくりのコーディネイター、むきばんだ史跡公園の職員を交えて、弥生時代の人々のデザイン力、そして作品の魅力などが楽しく語り合われ、盛り上がりました。

あおや発掘通信

青谷上寺地遺跡では毎年新しい発見が続いています。昨年の発掘調査でも貴重な出土品が見つかりました。その一つが、銅戈(どうか)の破片。これまでもいろいろいるものが出土している青谷上寺地遺跡で、はじめて出土した武器形の青銅器です。それも、これまで中国地方で初の発見となる「近畿型」と呼ばれる銅戈であることがわかりました。小さな出土品ですが、当時の社会を探る上でとても大きな発見です。

また、現在は、昨年の調査で出土したものを整理しています。事務所に持ち帰った遺跡の土を水で洗い、篩(ふるい)にかけて、ガラスの小玉や、弥生時代の人が食べていた魚の骨などの、小さくて見えにくい微細な遺物を探す作業を継続中です。手間はかかりますが、小さなものも見逃さない、大事な仕事です。

なお今年の発掘調査は弥生時代の海に近い場所を発掘します。調査は9月頃にスタートの予定です！ 調査中は発掘の様子を公開していきますので、お気軽にお立ち寄りください。



◆復元された銅戈



◆ふるいがけの様子

～土砂洗浄中～

小さな出土品も見逃さない